

東京五輪の星

新井 雄大 (18)

上越総合技術高3年

バレーボールアジアジュニア選手権

アジアで躍動

力強いスパイク連発

東京五輪の星がアジアで躍動。バレーボールの第18回アジアジュニア男子選手権大会(U-20)がこのほど台湾で行われ、日本は4位だった。上越総合技術高3年の新井雄大(18)が日本代表12人(うち高校生3人)の一員で出場し、持ち前の高さやパワフルなスパイクで攻撃の軸を担い、アジアの高いブロックを打ち破った。



U-20日本代表男子メンバー。前列右から5人目が新井(提供写真)

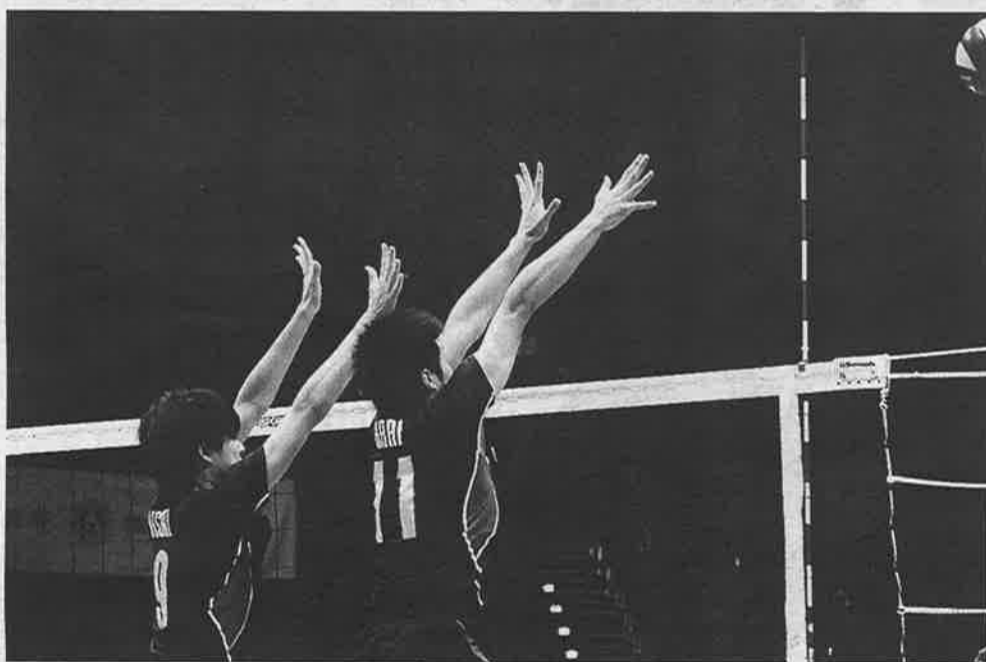
新井は身長188センチ、体重86キロ、「全日本」の中では大きい方ではないが、跳躍力を生かした最高到達点は2月の計測時で350センチに達し、全日本フル代表でもトップクラス。攻撃専門の「オポジット」のポジションで、サイドやバックから力強いスパイク、ブロックを見せた。

先発出場こそ予選の中国戦のみだったが、ほとんどの試合で途中出場し最後まで出続け、タイや準決勝のイラン戦で流れを変えた。「スパイクはある程度通用した。高さだけでなく、ブロックアウトも取れた」と話す。金メダルの中国は最高2対10、平均でも2対弱と高さがあり、「驚いた」という。

初の国際大会 財産に

初めて国際大会を経験し、大きな財産となった。今年1月の全日本高校選手権で対戦した東福岡高出身の金子聖輝(18、JT)は現在セッターで、トスを上げてもらった。一つ、二つ上の世代(大学生や実業団)に交わり、「普段より高いレベルで、この世代のトップとできたのはいい経験になる」と話した。

自身、課題はあらためて「レシーブ」と認識。あくまで拾って打てるアタッカーを金メダルは中国、銀はイラン、銅は韓国。目指している。「課題を克服して、今回は4位だったけど、(4年後の五輪では)差を詰めてリベンジできるように」と、東京五輪で代表入りし、メダル獲得を見据えている。



高さのある新井のブロック(右、同)



ジャンプ力を生かした新井のスパイク(同)

五輪へ後押し

支援の動きも

東京五輪の星を地元から選手権の報告と、東京五輪に向け、集中的に若手有望株を強化する日本バレーボール協会「チームコア」の活動(新井もメンバー入り)の激励会を8月4日に開く予定だ。